

特集【進化するモノづくり】

産学マッチング

機は熟した？

産学連携もいよいよ活発化してきた。

モノづくりの街「東京大田区」では、昨年4月から「研究開発マッチングシステム」をスタートした。地元にある東京工業大学を中心に大学・公的研究機関などと大田区の町工場をつなぎ、町工場の技術力を先端技術の研究に活かそうというわけだ。

「こういうものを作りたいが力を貸してもらえないか」—そんな大学・研究機関側からのオ

ファーは既に50件以上を数えるという。

マッチングの窓口となる大田区産業振興協会の本田晃シニアコーディネーターは「町工場と大田区からの共同開発といった大きな動きは少ないが、それでも2、3ビッグな案件がある。一方で試作部品などの発注はこのシステムを通じ頻繁に行なわれるようになった。予想以上の反響、成果といえるでしょう」。

大学の技術シーズを、産業界で花開かせよう

と、「学」側の熱意も相違なものだ。

この9月に開催された日本最大の産学マッチング会「イノベーション・ジャパン2007」には全国の大学から250を超える研究成果が発表された。左の写真ように各大学は幟などを立てて研究成果を産業界に必死にアピール、会場は来場者でこたがえし、3日間4万4000人を超す入出を記録した。

磨耗する切削工具類を工作機械の「機上」で再生させる研究開発で、ものづくり分野の「マイクロナソフ」特別賞を受賞した立命館大学では「地域の中小工場から課題をヒアリングし、ソリューションをはかる方向で研究に取り組んできた」とする。

産学マーケティング会「イノベーション・ジャパン」の賑わいは、将来の可能性を予感させる。

再生させる研究開発で、ものづくり分野の「マイクロナソフ」特別賞を受賞した立命館大学では「地域の中小工場から課題をヒアリングし、ソリューションをはかる方向で研究に取り組んできた」とする。工具の機上再生を完全に実現させるには今後他の技術も必要となるが、簡

単で素早い再生装置は、やはり地元町工場の現場を通じて実証済みだ。実践的教育に力を入れる大学では、町工場の経営者を工学部などの講義に招くことがグッと増えているが、そうした交流が産学連携の契機ともなるようだ。

板厚0.05ミリの前後の精密板金試作で高実績がある金森製作所（東京都大田区）の金森茂社長も大学などに招かれる一人。各所でセミナー講師を務めるうち、共同開発の要請が増えていると話す。

3次元のハイエンドCAD/CAMを駆使したモノづくりで成長する部品加工業キヤムブレイン（東京都江戸川区）の太田実社長は、一昨年から三重大学の非常勤講師を務める。次代のモノづくりや、IT活用、PM（プロジェクトマネージャー）による経営などがテーマだ。さらに最近では首都大学東京、専修大学、ものづくり大学などでも相次いで教壇に立つてきた。

そうしたなかで人的交流を深めた同社は「このほど、「ジェイ・ブレイン」という、企業と企業、企業と人を結ぶネットワークのための別会社を設立した。加工仕事の共同受注窓口として機能させるほ

か、ネットワークには大規模な巻き込み、ハイエンドCADの技術者養成など、新たにモノづくり人材の育成事業も行なうとしている。

